

社会資本総合整備計画 防災・安全交付金

令和02年03月06日

計画の名称	1 1 和歌山県無電柱化推進計画（無電柱化推進計画支援）												
計画の期間	平成31年度～令和05年度（5年間）										重点配分対象の該当	○	
交付対象	和歌山県,新宮市												
計画の目標	防災、安全かつ円滑な交通の確保、良好な景観の形成等の観点から、県内道路の無電柱化を推進し、和歌山県の魅力あふれる美しいまちなみを取り戻し、安全・安心な暮らしを確保する。												
全体事業費（百万円）	合計（A+B+C+D）	1,905	A	1,905	B	0	C	0	D	0	効果促進事業費の割合C / (A+B+C+D)	0	%

番号	計画の成果目標（定量的指標）			
	定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値		
		当初現況値 (H30末)	中間目標値 (H33末)	最終目標値 (H35末)
1	2020年度までに、和歌山県無電柱化推進計画に位置付けた緊急輸送道路上の約5kmの無電柱化に着手する。 無電柱化事業の実施を計画している延長と実際に着手した延長の比率（無電柱化事業着手率（%））で評価する。 〔無電柱化事業着手率（%）〕 = 〔無電柱化事業着手延長（km）〕 / 〔無電柱化事業計画延長（km）〕	0%	100%	100%

備考等	個別施設計画を含む	-	国土強靱化を含む	-	定住自立圏を含む	-	連携中枢都市圏を含む	-
-----	-----------	---	----------	---	----------	---	------------	---

A 基幹事業

基幹事業(大)	番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	種別1	種別2	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (延長・面積等)	市区町村名/ 港湾・地区名	事業実施期間(年度)					全体事業費 (百万円)	費用 便益比	個別施設計画 策定状況
												H31	R02	R03	R04	R05			
一体的に実施することにより期待される効果																			
備考																			
道路事業	A01-001	道路	一般	和歌山県	直接	和歌山県	国道	交安	(国)371号 市脇工区(11-A1)	電線共同溝(L=0.4km)	橋本市						300	-	
	A01-002	道路	一般	和歌山県	直接	和歌山県	都道府県道	交安	(主)新宮停車場線 下本町2~大橋通2(11-A2)	電線共同溝(L=0.4km)	新宮市						500	-	
	A01-003	道路	一般	新宮市	直接	新宮市	市町村道	交安	(1)大橋通上本町線上本町工区(11-A3)	無電柱化(L=0.2km)	新宮市						205	-	
	A01-004	道路	一般	和歌山県	直接	和歌山県	都道府県道	交安	(一)新和歌浦線 和歌浦中6~新和歌浦(11-A4)	電線共同溝(L=1.2km)	和歌山市						900	-	
												小計						1,905	
												合計						1,905	

交付金の執行状況

(単位：百万円)

	H31				
配分額 (a)	0				
計画別流用増 減額 (b)	0				
交付額 (c=a+b)	0				
前年度からの繰越額 (d)	0				
支払済額 (e)	0				
翌年度繰越額 (f)	0				
うち未契約繰越額(g)	0				
不用額 (h = c+d-e-f)	0				
未契約繰越率+不用率 (i = (g+h)/(c+d))%	0				
未契約繰越率+不用率が10%を超えている場合その理由					

## 事前評価チェックシート

計画の名称： 11 和歌山県無電柱化推進計画（無電柱化推進計画支援）

事 前 評 価	チェック欄
I. 目標の妥当性 上位計画との整合性が確保されている。	○
I. 目標の妥当性 計画の目標が「活力創出基盤整備」「街路事業」として適切なものとなっている。	○
I. 目標の妥当性 数値目標や指標を用いるなど、客観的かつ具体的な目標となっている。	○
I. 目標の妥当性 地域の課題を踏まえた目標が設定されている。	○
II. 計画の効果・効率性 事業内容は、計画の目標を達成する上適切なものとなっている。	○
II. 計画の効果・効率性 1) 基幹事業	○
II. 計画の効果・効率性 2) 効果促進事業	
II. 計画の効果・効率性 目標と指数・数値目標の整合性が確保されている。	○
II. 計画の効果・効率性 指数・数値目標と事業内容の整合性が確保されている。	○
II. 計画の効果・効率性 指数・数値目標が市民にとって分かりやすいものとなっている。	○
II. 計画の効果・効率性 ハードとソフトの連携等を図る計画である。	○
II. 計画の効果・効率性 事業の効果	○
II. 計画の効果・効率性 1) 十分な事業効果が確認されている。	○
II. 計画の効果・効率性 2) 事業連携等による相乗効果・波及効果が得られるものになっている。	○
III. 計画の実現可能性 計画の附帯性など、事業の熟度が十分である。	○

